

1. インターバンク市場

先週のインターバンク市場は、国債発行や申告所得税揚げなど、資金需給上の不足要因が強かったためか、週を通じて各業態からの調達意欲が見られた。無担保コールO/Nは、大手行で0.05~0.055%近辺、地銀・信託業態では0.055~0.06%台半ばのビッドが中心となっていた。出会いの中心レートは0.06%近辺となり、落ち着いた取引が続いていた。一部業態からは大口限定で0.07%台のビッドも見られていたため、無担保コールO/N加重平均レートは出会いレートより若干高め0.06%台前半程度での推移となっていた。ターム物に関しては、大手行から1W物で0.117%の調達が行われ、まとまった出会いが見られた。固定金利方式の共通担保資金供給オペは、23日に3M・8,000億円がオファーされ、応札額2,640億円(期落ち分2,911億円)と札割れの結果になった。

今週のインターバンク市場は、27日の国債発行や5月1日の税揚げの前倒しといった揚げ要因があり、連休前の銀行券発行要因も加わることから、国債買入オペの実施を加味しても、資金需給はトントンとなる見込み。無担保コールO/N物は0.06%台前半を中心とした出会いが続くと予想される。国内のイベントとしては30日の金融政策決定会合・展望レポートの発表や5月1日の3月の全国CPIが挙げられる。金融政策の現行維持が予想される中、展望レポートの物価見通しに注目したい。海外のイベントとしては、28~29日のFOMC、28日の英国1-3月期のGDP速報値、29日の米国1-3月期のGDP速報値、30日の4月のユーロ圏CPI速報値などが挙げられる。

2. オープン市場

先週の短国市場は、引き続きタイトな需給関係が続いており、気配が軒並みマイナス水準となっていたこともあって、動意に乏しい閑散としたマーケットとなった。23日には新発3M物の入札が実施された。WI取引で▲0.008%の出会いが見られていたものの、平均落札レート▲0.0064%、按分落札レート▲0.004%と概ね事前の予想通りの結果となった。その後のセカンダリーでは、翌日の短国買入オペを睨んでか、▲0.014%までレートが低下した。24日には短国買入オペが2兆5,000億円がオファーされ、結果は平均利回り較差が+0.002%、按分利回り較差が▲0.016%、応札額3兆2,481億円となった。前回の短国買入オペと同様、応札額が少なく、テールが流れる結果となった。

先週のCP市場は、機械・鉄鋼・ノンバンクなどを中心に大規模な発行案件が複数実施され、4,500億円程度の償還に対し、発行が1兆円強程に膨らむ活況なマーケットとなった。3月末時点では14兆円台前半まで減少していた発行残高も、週末時点では16兆円台弱の水準まで持ち直していた。発行レートの水準については、依然として底堅い運用ニーズを反映し、落ち着いたレートでの決着が中心となっていた。a-1格銘柄で期間を問わず、0.08%台が中心となっており、a-1+格や一部のa-1格銘柄では0.07%台で決着するものも見られた。24日はCP等買入れオペが4,000億円がオファーされ、結果は平均レート0.079%、按分レート0.074%となった。買入対象銘柄が限定的なことや、売却ニーズの強い銘柄があまり採用されなかったことに加え、発行レート、現先レートが依然として落ち着いた水準で推移していたことから、前回(平均0.081%按分0.073%)より平均レートが若干低下する結果となった。

今週の短国市場は28日に新発3Mの入札が予定されている。需給の引き締まりが意識されており、引き続きマイナス圏から0%付近の堅調な決着が予想される。CP市場は、一部の銘柄では既に底打ちした感も見られており、発行残高の増加とともに徐々にレート水準が上昇する展開になると予想される。

3. 資金需給および国債等

銀行券は週間で8,400億円程度の発行超見通し。財政等要因は、27日の国債発行等があり、1兆8,400億円程度の揚げ超見通し。以上により、今週の資金需給(日銀調節を除く)は週間で2兆6,800億円程度の資金不足を予想する。国債・借入金(日銀償還は除く)の動きは次の通り。<27日>TB3M;償還44,300億円・発行54,000億円 / 40Y;発行4,000億円<30日>交付税特会借入;期日10,500億円・新規10,500億円

2015年	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オベ	期日	新規実行	オペ合計	実質過不足
4/27(月)	△ 1,500	△ 9,200	△ 10,700	全店共通(面) CP買入 社債買入	△ 2,900 △ 500 △ 100	2,600	△ 900	△ 11,600
4/28(火)	△ 3,000	△ 1,000	△ 4,000	国債買入 短国買入		5,200 25,000	30,200	26,200
4/29(水)	昭和の日							
4/30(木)	△ 1,900	△ 1,200	△ 3,100	CP買入		4,000	4,000	900
5/1(金)	△ 2,000	△ 7,000	△ 9,000				0	△ 9,000
週間合計	△ 8,400	△ 18,400	△ 26,800		△ 3,500	36,800	33,300	6,500

(注) 上表の4/27日は日銀予想、4/28以降は当社予想。

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
4/27(月)			
4/28(火)	3月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	TB3M 54,000億円 5/7発行	米FOMC(1日目) 1-3月期の英GDP速報値 2月のS&P/ケース・シラ一住宅 価格指数 4月の米CB消費者信頼感指数
4/29(水)	昭和の日		米FOMC(2日目) 1-3月期の米GDP速報値
4/30(木)	日銀政策委・金融政策決定会合 経済・物価情勢の展望 日銀総裁定例会見(15:30) 3月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 3月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)		3月の米個人所得・消費支出 4月のシカゴPM景況感指数 4月のユーロ圏消費者物価指数 速報値
5/1(金)	3月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 3月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 3月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 4月都区部・3月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 3月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 10:30) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	流動性供給 3,000億円 5/8発行	3月の米建設支出 4月のISM製造業景況感指数 欧州祝日(Labour Day)

本資料の内容は、十分信頼し得る情報・データ等に基づいて作成しておりますが、内容の正確性については弊社がこれを保証するものではありません。掲載内容のタイトル・日時・地域等につきましては、お取引先様各位にて別途ご確認いただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。

金融商品取引法に基づきお渡りする書面や目論見書をよくお読みください。